資料５
科学技術・学術審議会　研究計画・評価分科会
安全・安心科学技術委員会（第17回）H21.3.19

安全･安心科学技術委員会の取組について

平成21年3月

文部科学省　科学技術･学術政策局
安全･安心科学技術企画室

科学技術・学術審議会

研究計画・評価分科会

•科学技術に関する研究及び開発に関する計画の作成及び推進に関する重要事項
•科学技術に関する研究及び開発の評価に係る基本的な政策の企画及び立案並びに推進に関する重要事項
•科学技術に関する関係行政機関の事務の調整の方針に関する重要事項（上記2項に掲げる事務に係るものに限る）

- 資源調査分科会
- 学術分科会
- 海洋開発分科会
- 測地学分科会
- 技術士分科会
- 海洋開発分科会

〈部会〉

- 研究評価部会、他

〈委員会〉

- ライフサイエンス委員会
- 情報科学技術委員会
- 地球環境科学技術委員会
- ナノテクノロジー・材料委員会
- 防災分野の研究開発に関する委員会
- 航空科学技術委員会
- 原子力分野の研究開発に関する委員会
- **安全・安心科学技術委員会**
- 脳科学委員会

安全・安心科学技術委員会の検討事項

「科学技術基本計画」を踏まえ、文部科学省における安全・安心科学技術に関する研究開発計画の作成及び推進に関する重要事項の調査検討を行う。

安全・安心に資する科学技術の推進

第３期科学技術基本計画を踏まえた基本的な考え方

○「社会・国民に支持され、成果を還元する科学技術」の実現
○経済的価値のみならず安全・安心な社会の構築への貢献など社会的価値の創出を目指し研究開発の成果を通じたイノベーションを実現

→ **世界の規範となる安全・安心な国づくりを実現**

安全・安心科学技術プロジェクト

平成21年度予算：538百万円（625百万円）

重要研究開発課題の研究開発を進めることにより、国家安全保障、国民生活の安心と安全確保への貢献を目指す。また、この取組みを通じ、安全・安心に資する科学技術推進のための拠点の整備、関連研究者等のネットワークの構築を図る。

危機事態別・分野別の研究開発の推進

平成21年度予算：26,794百万円（26,352百万円）

総合科学技術会議「安全に資する科学技術推進戦略」等を踏まえた、危機事態別・分野別の研究開発の推進

- 1.大規模自然災害　18,832百万円（18,207百万円）
- 2.重大事故　657百万円（657百万円）
- 3.新興・再興感染症　2,064百万円（2,500百万円）
- 5.情報セキュリティ　62百万円（106百万円）
- 4.食品安全問題　62百万円（64百万円）
- 6.テロリズム・各種犯罪　500百万円（409百万円）
- 7.その他　4,617百万円（4,411百万円）

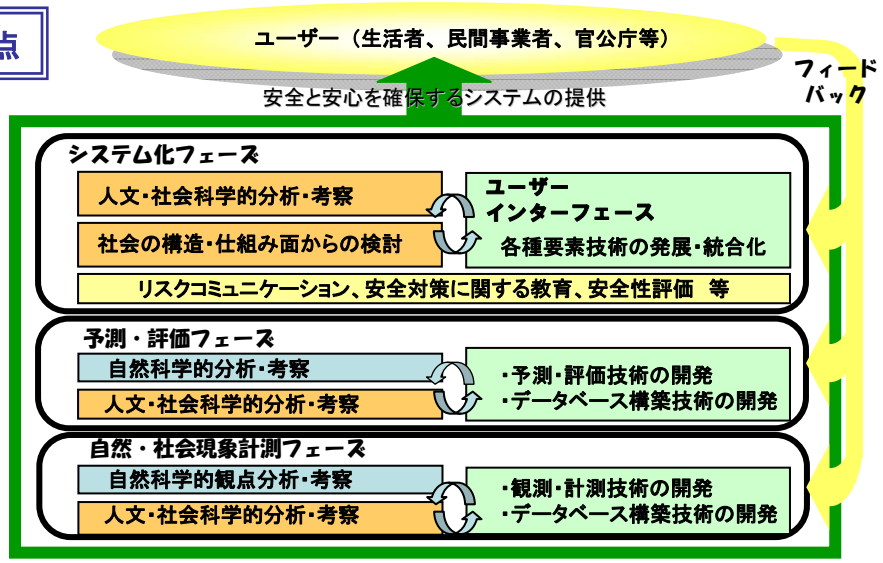
※ 独立行政法人の運営交付金中の推計額を含む

「安全・安心科学技術の重要研究開発課題について」
（平成１９年７月　安全・安心科学技術委員会）

特に、国民の「安心」感に着目して、安全・安心科学技術の重要研究開発課題について安全・安心科学技術委員会において、検討を行い、平成19年7月に結果をとりまとめ。

安全・安心科学技術の考え方と重要研究開発課題抽出の視点

- 行動学的、心理学的知見も活用した人間行動や人間を取り巻く社会環境の把握
- 現象の把握を行った上でのリスクアセスメント
- 人文・社会系等多様な分野の知見の動員
- 常にユーザーの視点を取り入れることと、地域や環境による差の考慮
- リスクコミュニケーションを初めとしたユーザーへのフィードバック



重要研究開発課題の例

＜安全・安心科学技術を支える基盤研究＞

・社会現象計測研究
・社会現象予測・評価研究

＜社会的課題に対応した研究開発課題＞

・大規模自然災害リスク評価・監視システムの開発
・災害情報通信システムの開発
・社会インフラの管理
・情報通信ネットワークの安心確保
・テロ・犯罪等で使用される危険物の検知・処理
・不審者検知システムの開発
・子ども・高齢者の危険状態検知・発報システムの開発
・子ども・高齢者の事故予防
・疾病予防・健康増進のための健康モニタリング

安全・安心科学技術プロジェクト

平成21度予算　　：538百万円
（平成20年度予算額：625百万円）

重要研究開発課題の研究開発を進めることにより、国家安全保障、国民生活の安心と安全確保への貢献を目指す。また、この取組みを通じ、安全・安心に資する科学技術推進のための拠点の整備、関連研究者等のネットワークの構築を図る。

重要研究開発課題の研究開発

○ テロ対策等に係る研究開発

我が国においても、テロ対策、危機管理等に関する技術の強化が必要である。これまで蓄積された基礎研究の成果を積極的に活用するため、大学・研究機関が現場と連携してテロ対策等に係る研究開発を実施。

【平成19年度採択プロジェクト】
《危険物検知》
・ウォークスルー型爆発物探知システム（日立製作所）
・ミリ波パッシブ撮像装置の開発（東北大学）
《危険物質拡散・被害予測シミュレーション》
・有害危険物質の拡散被害予測と減災対策研究（東京大学）
【平成20年度採択プロジェクト】
《化学剤・生物剤のリアルタイム検知》
・生物剤検知用バイオセンサーシステムの開発（大阪大学）
・生物剤リアルタイム検知システムの開発（東芝）
《爆発物検知（1年間のフィージビリティスタディ》
・バリヤー放電/質量分析による爆発物検知（FS）（山梨大学）
・赤外吸収によるペットボトル中液体爆発物の検知技術の開発（FS）（大阪大学）

【平成21年度公募予定プロジェクト】
《液体爆発物・危険物検知》（予定）

○ 地域社会の安全・安心の確保に係る研究開発

平成19年7月の安全・安心科学技術委員会の提言「安全・安心科学技術の重要研究開発課題について」を踏まえ、平成20年度から新たに、地域社会において安全・安心を確保するため、技術開発に留まらず、地域社会を具体的なユーザーとして、現場で科学技術のシステム化を図るモデル事業を実施。

【平成20年度採択プロジェクト】
《災害時における地域の安全・安心の確保のための情報システムの構築》
・住民・行政協働ユビキタス減災情報システム（山梨大学）
・地域水害リスクマネジメントシステムの構築と実践（熊本大学）
・時空間処理と自律協調型防災システムの実現
（（独）防災科学技術研究所）

安全・安心に関わる知・技術の共有化

個々の研究開発プロジェクトで得られた知見と人脈を集積し、整理・蓄積するとともに、これらの情報を、ニーズを持つ官庁や各分野の研究拠点にフィードバックする。また、安全保障に係る研究情報の公開の在り方等について検討を行う。

安全・安心科学技術を巡る動向と委員会の今後の取組について

○現在、総合科学技術会議（CSTP）において、第３期科学技術基本計画に基づく分野別推進戦略について、中間フォローアップを実施中。

○安全・安心科学技術については、社会基盤科学技術分野の一つとしてCSTP社会基盤PT（プロジェクトチーム）において検討を実施。３月中を目途に検討結果について、取りまとめる予定。

○また、文部科学省においても、次期科学技術基本計画の策定に向けた検討を視野に、新たな委員会を設置して、本年６月以降、検討を開始予定。

○安全・安心科学技術委員会でも、今後、安全・安心科学技術分野の課題を把握し、次期科学技術基本計画の検討も視野に入れつつ、更なる発展に向け提言等を取りまとめていくことが必要。